

一般社団法人
日本新聞製作技術懇話会
会報 (隔月刊)
VOL.50 No.1
2026.1.1
(通巻 291 号)
禁転載

CONPT

Conference for Newspaper
Production Technique-Japan

広報委員会編集
編集人 井上 努
東京都千代田区内幸町
日本プレスセンタービル
8 階 (〒100-0011)
電話 (03) 3503-3829
FAX (03) 3503-3828
<http://www.conpt.jp>



【会報「CONPT」 PDF化のお知らせ】

会報「CONPT」のご愛読ありがとうございます。

さて、小誌は次号(通巻292号、7月予定)をもちまして紙での発行を終了、次々号からはPDF形式での配信に切り替えさせていただきます。

電子化によって、よりスムーズに情報をお届けできるようにしていきます。

▽発行回数＝会報の発行回数を、従来の年5回から、3回(1月・7月・11月)に変更します。

▽メールアドレスの確認＝PDF配信への切り替えを前に、配信用メールアドレスを確認させていただきます。次号をお届けする際に、その旨の文書を同封いたします。手数をおかけすることになりますが、よろしくお願いいたします。

(お問い合わせはCONPT事務局まで)

目次

年頭のご挨拶	日本新聞製作技術懇話会 会長 清水 英則	3
	日本新聞協会技術委員会 委員長 近藤 るみ	4
新聞技術賞を受賞して		
	日本経済新聞社 サブスクリプション事業デジタル編成ユニット・サービス開発グループ長 鈴木 陽介	5
CONPT年末全体会議		6
第2回製作技術研修会開催		7
第17回CONPT技術研究会		8
楽事万歳	東京機械製作所 営業本部 営業グループ 営業課長 三村 成孝	9
3社入会・新入会のことば		10
	NTTデータ イントラマート	
	大阪重機	
	プロフィールド	
会員消息		11
大谷選手MVP号外		12
美味あっちこっち	パナソニックコネクタ 浜川 秀樹	12
わが職場あれこれ	岩手日報社 総合メディア局 システム部長 千葉 幸二	13
CONPT日誌		13
会員名簿		14

●表紙提供：静岡新聞社・編集局写真部「厳冬の富士山と駿河湾、伊豆半島」

●表紙製版・組版・印刷：(株)デイリースポーツ

年頭のご挨拶

「人と人を繋ぐCONPT」を構築

日本新聞製作技術懇話会 会長

清水 英則



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日本新聞製作技術懇話会(CONPT-JAPAN)は昨年、創立50周年を祝うことができました。新聞業界関係各位のご支援の賜物であり、改めて御礼申し上げます。大きな節目を経て、今年は新たな展望を開くべく努めてまいります。

新聞業界を取り巻く環境は、特にこの5年から10年にかけて厳しさを増すばかりでした。記憶の新しいところでは、新型コロナウイルスの蔓延によりCONPT事業も大きな転換を余儀なくされました。極めて厳しい時期ではありましたが、従来の在り方をもう一度見詰め直す時にもなったと理解しています。

大きな転換を示すものとして取り組んだ事業が、CONPTのシンボルであったJANPSの代替イベント、「製作技術研修会」と「JANPS in page 2025」でした。どちらも多くの新聞業界関係者に来場していただき、「大変有意義だった」との評価を得ることができました。人と人が集まることによって生まれるエネルギーは大変大きなものであり、今後の業界を支える礎になると改めて感じることができました。

今年は新たなイベントとして「CONPTイノベーションフォーラム」を6月に開催する予定です。講演会、セミナーと懇親会を組み合

わせ、上流下流にとらわれず新技術や新たな取り組みの発表を中心に、新聞社が共通して関心を持つテーマで構成する方向で検討しています。CONPT事業は技術情報の発信と共有を図ること、そして人と人を繋げる橋渡しとなれるようなイベントを企画してまいります。日々変化する環境に対応できるよう、常に最適解を求めていきたいと考えています。

＊

今年のCONPTには、喫緊の課題がもうひとつあります。それは、「CONPTの存続に向けた体制の見直し」です。業界環境の変化やコロナ禍による事業停滞の影響を受けて会員社数が大幅に減少しています。会費収入の落ち込みはCONPT財政に大きく影響することになり、早急に組織体制ならびに収益構造の見直しを図る必要があります。人件費、オフィス賃料といった固定費の再点検、事務局業務の効率化を進め、収益構造については既存事業の経費節減、CONPT主催イベントの収益化などを考えています。そして、新たな会員社を呼び込むためには、上流下流を問わず新聞に関連する技術の枠を広めた活動が必要になると考えています。日本新聞協会、新聞社の方々とこれまで以上の連携を図り、これらの難題に取り組んでいきます。

国民生活を取り巻く環境は、より多面的かつ不安定な様相を強めています。不確実性の高い社会状況の中でこそ、新聞社の発信する信頼できる情報がより一層求められます。CONPTはこれからも新聞発行を技術面で支えるため、会員社が一丸となって邁進します。本年もよろしくお願いいたします。

年頭のご挨拶

「技術」を通じて新聞再生の一翼

日本新聞協会技術委員会
委員長

近藤 るみ



謹んで新年のお慶びを申し上げます。2025年4月、日本新聞協会の技術委員長を拝命いたしました。旧年中は格別のご指導を賜り、厚くお礼を申し上げます。一般社団法人「日本新聞製作技術懇話会」(CONPT-JAPAN)の創立から半世紀にわたり、新聞印刷業界を支えてこられた皆様のご尽力に敬意を表するとともに、年頭の挨拶の機会を賜り光栄に存じます。

*

JANPS（新聞製作技術展）は25年2月に「JANPS in page2025」として日本印刷技術協会(JAGAT)と共催で開催しました。新聞制作のDX化をテーマにクラウド型編集システムやAIを用いた制作支援技術など、業界の未来を示す展示が多く見られました。来場者の満足度も高く、特にAWS（アマゾンのクラウドサービス）上で稼働する編集システムが印象に残りました。

25年10月には、長野県の県紙「信濃毎日新聞社」で若手中心の製作技術研修会を実施しました。前年に稼働したばかりの松本印刷センターの見学会を開催。印刷から発送まで効率良くつなぐレイアウトなど、最新の運用モデルを確認しました。全国から集まった若手

技術者との交流も活発に行われ、技術者育成に向けて刺激を受けた社も多いと思います。

ただ、新聞業界を取り巻く環境はますます厳しくなっています。25年2月には製紙会社が新聞用紙の受注減により、民事再生法を申請しました。用紙代、インク代など資材費高騰も止まらず、新聞各社の利益を圧迫しています。輪転機メーカーの事業撤退に伴う、事業継承の問題については新聞協会の活動とは別に連絡会をつくり、今後のサポート体制の強化を引き続き求めて参ります。

*

新聞はもはや「オールドメディア」であり、未来のない媒体なのでしょうか。生成AI（人工知能）の急速な普及によって、情報の発信、受信のあり方は大きく変わりつつあります。誰もが瞬時に情報を得られる一方で、インターネット上には虚偽情報が出回り、いたずらに人々の感情的な対立をあおっています。国内外に課題が山積するなか、信頼できる情報を人々に届ける新聞の役割は逆に強まっています。

「知る権利 捨てたくないから 今日読む」——25年度の「新聞週間標語」の入選作にこんな作品がありました。人々の意見が多様化するなか、私たちには「技術」を通じて、読者の皆様との橋渡し役を担う大きな役割があります。「変わるべきものと守るべきもの」を見極め、新聞再生の一翼を担いたいと存じます。本年も、変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

新聞技術賞を受賞して

Ask! NIKKEI:生成AIで拓く新聞コンテンツの新たな価値

日本経済新聞社

サブスクリプション事業デジタル編成ユニット・サービス開発グループ長

鈴木 陽介

「この専門用語の意味がわからない」「ニュースの背景をもっと深く知りたい」——読者のこうした疑問に、日本経済新聞社は生成AI技術を使った新サービス「Ask! NIKKEI」で応えた。2025年3月に全有料会員へ公開、読者の質問に対して日経記事データベースから最適な情報を検索し、信頼性の高い回答を瞬時に生成する。2025年12月初め時点で、累計利用者数40万人、累計質問数240万件を超え、日経電子版の主要サービスとして定着している。

【技術の概要】

Ask! NIKKEIは「RAG（検索拡張生成）」と呼ばれる技術を採用している。これは膨大な記事データベースから関連情報を検索し、その結果を基にAIが回答を生成する仕組みである。

システムの中核は4段階の情報処理にある。第1段階の「クエリ展開」では、読者の質問から本質的な検索クエリを抽出する。第2段階では、従来型の単語マッチングと文脈理解を組み合わせた「ハイブリッド検索」を実行する。

特筆すべきは、日本語ニュースに特化した独自モデルの開発である。「日経SPLADE」と呼ぶSparse検索モデルは、日経記事に特化した言語モデルで、その性能は他の大型モデルを凌駕する。加えてDense検索モデルも使用し、表現は異なるが意味が近いキーワード



にも対応する。例えば「訪日外国人が好む料理」という質問に対し、「インバウンドで人気の食べ物」という異なる表現の記事もヒットさせることができる。

第3段階では、約100万件のデータで訓練した独自の判定モデルが、単に関連性が高いだけでなく、実際に回答作成に有益な記事かどうかを見極める。第4段階で、厳選された情報のみをAIに渡すことで、高品質な回答を生成する。

平均回答時間5秒という高速応答も大きな特徴である。クリック後400ミリ秒で表示が始まり、読者は待たされている感覚を持たない。これは自社開発の小型モデルによる高速検索と、AIに渡すデータ量の最小化により実現した。

生成AIの課題である「ハルシネーション」（誤情報の生成）対策では、情報源を日経電子版の記事のみに限定し、回答には必ず出典記事を明示する。引用マーカーやサムネイルにより、根拠の所在を直感的に示している。

【開発の工夫】

追求したのは回答精度とコスト効率の両立である。インフラ構成を繰り返し刷新し、GPUサーバーや専用データベースなど新たな構成要素を導入しながらも、Ask! NIKKEI開始に伴う追加コストを日経電子版全体のクラウド費用の1%未満に抑えた。

もう一つの課題は、いかに読者に使ってもらうかであった。各記事ページにAIが事前生成した4つの質問を表示する仕組みを導入した。読者は自分で質問を考える必要がなく、興味のある質問をクリックするだけで即座に回答を得られる。実際、利用セッションの66%以上が事前生成質問から開始されており、この工夫が利用促進に大きく貢献している。

開発は、社内メンバーと外部委託先を含めてわずか5人程度のチームで進めた。大規模な開発体制でなくとも、創意工夫により最先端のシステム構築が可能であることを証明した。

【経営上の意義】

新聞業界は現在、生成AIによる記事の無

断学習や、検索エンジンの要約文だけで満足するユーザーの増加という「ゼロクリックサーチ」問題に直面している。Ask! NIKKEIは、日経電子版の記事のみを情報源とし、すべての回答に出典記事へのリンクを付与することで、この問題に正面から対応した。コンテンツの価値を守りながら、むしろ記事への誘導を促進する仕組みを構築している。

88%のユーザーが「役に立った」と評価し、高い満足度を獲得している。「簡潔でよくまとまっている」「歴史的な背景まで明確」といった評価は、単なる記事の羅列では得られない付加価値を生み出していることを示している。

Ask! NIKKEIの開発は、生成AIを脅威としてではなく、新聞コンテンツの価値を高める機会として捉えた挑戦である。新聞社が蓄積してきた膨大な記事アーカイブは、AI時代においてこそ真価を発揮する。50万件以上の過去記事を「生きた知識ベース」として再活用し、読者に新たな価値を提供する本プロジェクトの知見は、新聞業界全体のデジタル変革に貢献できると考えている。

CONPT年末全体会議を開催

一般社団法人日本新聞製作技術懇話会は、第5回年末全体会議を12月15日、日本記者クラブ・会見場で開催した。来賓として、日本新聞協会から近藤るみ技術委員長、勝田洋人編集制作部長、桜井哲也技術・通信担当主管の3氏を迎えた。会員社からは、オンライン参加を含め22社・33名が出席した。

清水英則会長は開会挨拶で、創立50周年という節目を無事迎えられたことへの謝意を述べた。あわせて、製作技術研修会やpage展でのJANPS開催など、コロナ禍明けの事業活動が本格的に再開できた意義を強調した。一方で、現在の会員社数の会費収入では事業

運営が難しい状況にあることを踏まえ、事業継続に向けて人件費やクラブルーム賃料など固定費の見直しに取り組む方針を示した。

来賓挨拶で近藤委員長は、生成AIの急速な進展と情報環境の変化に触れ、正確な情報を届ける新聞の役割は一層重要になっていると指摘した。あわせて、新聞を支える技術分野において、CONPT会員社の協力の重要性を強調した。勝田部長は、50周年への祝意を述べた上で、製作技術研修会が新聞社の高い関心を集めていることに触れ、今後も業界ニーズに即した取り組みへの期待を示した。

会議では、2025年4月から11月までの事業中間報告として、全体報告および各委員会からの活動報告が行われた。

信毎・松本印刷センターを訪問

第2回製作技術研修会を開催

日本新聞製作技術懇話会(CONPT)は、日本新聞協会との共催で、2025年10月23日・24日に第2回製作技術研修会を開催した。新聞社関係33社59名、信濃毎日新聞社4名、CONPT会員社16社27名、事務局3名の計93名が参加した。

今回の研修会は、昨年に続いて開催したもので、新聞印刷工場の現場で最新技術を体感できる機会として企画した。募集定員を60名としていたが、新聞社関係からの申し込みだけで早々に定員に達してしまった。そのため、会員社向けに1日目の工場見学と懇親会のみのコースを新設し、セミナーは後日動画配信で補った。

初日は、信濃毎日新聞社「信毎メディアガーデン」(長野県松本市)でセミナーを開催。HOUSEI、サカタインクス、インテック、東京機械製作所の4社が登壇し、AIの活用や環境対応、次世代型標準輪転機について発表した。続いて、信濃毎日新聞社の中村賢二印刷局長が松本印刷センターの概要を紹介した。同センターは、印刷と発送を一体化し効率的に運用できるよう、輪転機2セットを直列に配置し、発送設備を輪転機の隣接位置に設置。トラックゲートも同一フロアに設け、印刷から発送・積み込みまでの流れを最短化している。また、印刷室と発送室を樹脂や金属の壁で仕切り、騒音軽減や空調効率化を図るとともに、紙粉やインキミストの飛散抑制にも配慮している。

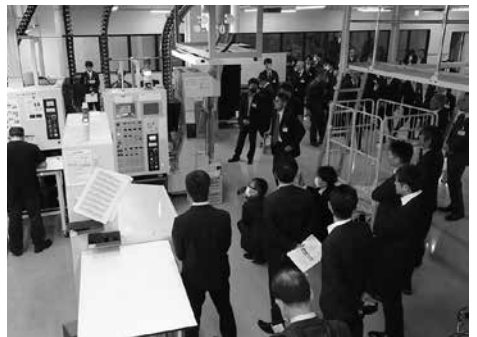
セミナー後はホテルモンターニュ松本に会場を移し、立食形式の懇親会を開催。新聞社関係者同士、また新聞社と会員社の間でも活発に交流が行われ、つながりを深めるとともに、情報を共有する貴重な機会となった。

2日目は、松本駅から貸切バスで信濃毎日



交流と情報共有の場に

新聞松本印刷センターを訪問。参加者は3班に分かれ、同センターの案内担当者に先導されて工場を見学した。清水製作、東京機械製作所、椿本チエイン、西研グラフィックス、ストラパック、第一工業の6社が、自社設備の前で説明を行った。最後に、受注媒体の「須坂新聞」が印刷され、新聞束が作成・搬送されていく一連の流れを実際に見学した。



「印象的な見学会だった」の声

研修会後のアンケートでは「大変満足」「満足」との回答が大半を占め、とくに松本印刷センター見学が印象的だったとの声が多く寄せられた。一方で、「セミナーは机のあるスクール形式が望ましい」「質疑応答の時間を増やしてほしい」との意見も見られた。



今回の製作技術研修会も申込みが早期に定員を超え、参加希望に十分応えられなかったことが課題として残った。今後は運営方法を見直し、より多くの参加者が参加できる研修会の実現を図りたい。本研修会の開催にあたり、多大なご協力をいただいた信濃毎日新聞松本印刷センターならびにセミナー登壇各社の皆様に厚く御礼申し上げます。(事務局)

人材戦略-AIによる支援

——第17回CONPT技術研究会



日本新聞製作技術懇話会は、2025年11月7日に第17回CONPT技術研究会を開催した。東芝デジタルソリューションズからHRMソリューション部マーケティング担当エキスパートの萬大祐氏を講師に迎え、「人的資本経営の課題とAIエージェントを活用した人材戦略の今～AIによる支援の可能性～」をテーマに講演を実施。続いて、同社データ事業推進部データプラットフォーム推進担当スペシャリストの勝俣広平氏が「企業成長を支えるDX人材の育成戦略」をテーマに説明した。新聞社関係係40名(オンライン29名)、会員社20名(オンライン11名)のほか事務局3名の計63名が参加した。

【講演の要旨】

▼人的資本経営の実現

萬氏は、AI技術を活用した人的資本経営の実現に向けた最新の取り組みを紹介した。

日本企業は今、深刻な労働力不足に直面している。新卒採用が全体の3割程度にとどまり、中途採用が主流となる中で、企業成長を支えるためには、明確な人材戦略の策定が不可欠となっている。

人材戦略を経営と結びつけるには、まず可視化が重要である。エンゲージメントの把握や女性管理職比率の向上といった取り組みは進んでいるものの、それが経営成果とどのよ

うに関係しているかを示すことは難しく、多くの企業が課題を抱えている。背景には「ノウハウや体制がない」「進め方がわからない」といった現場の戸惑いがある。

この課題に対する新たなアプローチとして注目されているのが、AIを活用した人材戦略の設計支援である。AIの「マルチエージェント」機能を用いることで、経営戦略をインプットとし、異なる視点を持つ複数のAIが相互に議論を行いながら、人材ポートフォリオの構築、必要スキルの定義、育成方針の策定までを導き出すことが可能となる。

▼DX人材育成の実践的方策

勝俣氏は、DX人材育成を組織に根付かせるための実践的な方策を示した。DX人材育成を進める上で、多くの企業が「研修を実施しても現場が動かない」「一部の人材だけの取り組みにとどまる」「DXの意識が社内に浸透しない」といった課題を抱えている。これらの問題は育成プログラムの内容よりも、むしろ浸透の仕方に原因があることが多い。どれほど優れたプログラムを用意しても、社内に根付かなければ意味をなさない。つまり、DX人材育成を社内に定着させるためには、仕組みと文化の両面からのアプローチが不可欠である。

また、DX人材育成を社内で完結させようとする傾向は強いが、変化の激しいDX分野においては社内リソースや知見だけでは対応しきれない。最新技術や他社事例を外部から取り入れることは、育成の質と幅を高めるうえで不可欠であり、その具体例が「DSMパートナーズ」である。企業や自治体が横断的に参加し、DX人材育成に関する課題や取り組みを共有するコミュニティとして運営されている。参加者はディスカッションによる情報共有に加え、各社の育成計画や、外部有識者による講演などを通じて、他社の取り組みやDX推進スキル標準を活用した実践的な育成方法を学ぶ場となっている。

歳事万楽

収穫の楽しみ

東京機械製作所
営業本部営業グループ営業課長

三村 成孝

今から12年前の2013年に、現在の住まい練馬区に引っ越しました。駅を降りてしばらく歩くとブルーベリー農園が広がる、ブルーベリー栽培が盛んな地区です。子供の小学校の地域祭りで、苗木を無料配布しており、庭に植えたのが我が家の家庭菜園の始まりです。

栽培知識が全くなかったため、栽培方法を調べ、苗木が届く前にまずは土壌作りが必要なことを知りました。土を酸性にするため、ピートモスと鹿沼土を購入。届いた苗は思っていたより大きく、1mほどありました。1本でも自家受粉して実がなると聞いた通り翌年には実をつけました。しかし、異なる品種を混ぜるほうがたくさん実をつけると知り、ホームセンターで品種の違う苗を購入、少しずつ数を増やしていきました。

ブルーベリー栽培のポイントは日当たり。我が家は残念ながら庭に日が当たる時間が少ないため、鉢植えにして、日当たりが良い場所に移動。また鳥避けとして、園芸パイプとネットで囲いを作りました。うまい具合に蜂が受粉を手助けし大豊作。家族全員大喜びです。しかし現在は蜂の巣を取ったため残念ながら収穫量が減ってしまいました。

＊

ブルーベリーがうまいいったため、次は葡萄とキウイの苗を買ってみました。角材やペンキなどを購入し葡萄棚とキウイ棚を自作。残念ながらキウイは6年ほどたっても花が2つ咲いただけで実らず栽培はあきらめました。

葡萄の品種はスチューベン。青森県での栽培が多いようで、デラウェアよりひと回りほど粒が大きく甘いのが特徴です。将来を考え

地植えでなく鉢植えとした。(現在根は鉢から伸びて鉢は動かず)成長するにつれて蔓は葡萄棚から、カーポートへ伸びていった。

カーポートの屋根の下にネットを張れば蔓を伸ばすことができるのではないかと…これがうまいって、初めて実がついたのは、植樹してから3年後。花が咲き、実がなると嬉

鳥にも少し残してあげよう



しくて、摘果するのがもったいなくそのままにしておいたことで、小さな実になってしまいましたが、とても甘くて美味しい葡萄が収穫できました。それからはいかに大

きな実に育てるかに熱が入り、水やり・肥料・剪定・芽かき・摘心・摘房・袋かけ・病害虫対策など、ブルーベリーよりも手間がかかりましたが楽しく、開花前後に薬液処理して種無しにチャレンジなど試行錯誤しました。(種が残ったため薬剤処理は一度のみ)

葡萄が熟してくるとムクドリが飛んできて攻防戦の始まりです。そろそろ葡萄に袋掛けをするかな～とのんびりしていると、地面には鳥のフンが。ちょうど熟した食べごろからついばんでしまうのです。本当にめんどくさいのです。いまでは袋掛けは300房くらいになるのですが、最近ではあえて袋掛けせず少し残しておいてあげよう、と余裕をもてるようになりました。

スチューベンがうまいいったため巨峰の苗を3年ほど前に植え、今年初めて2房ほど小ぶりの実がつけました。スチューベンより難しそうですが、年を追うごとに枝が少しずつ伸びていくのが実感でき、こちらはじっくりと育てていきたいと思います。近くには畑も多く自然に恵まれたこの地が気に入っています。7月中旬から1か月ほど葡萄の最盛期ですので、ぜひ収穫に来てください。

CONPT 新たに3社が入会

日本新聞製作技術懇話会(CONPT)に3社が入会の運びとなりました。(株)NTTデータ

イントラマート(東京都港区)、大阪重機(大阪府摂津市)、(株)プロフィール(大阪市北区)で、いずれも1月5日付です。CONPT会員社は35社になります。=11面「会員消息」参照

NTTデータ イントラマート

エンタープライズ営業グループ担当部長

田嶋 謙至

この度は、日本新聞製作技術懇話会への入会をご承認いただき、誠にありがとうございます。

今回、とある新聞社に弊社製品をご採用いただき、お客様の業務プロセス再構築や新システム開発のプロジェクトに参画したことを契機に、懇話会へ入会させていただく運びとなりました。

入会に際し、さまざまなご配慮を賜りました関係者の皆様に、この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

弊社は1998年に株式会社NTTデータの社内ベンチャー制度を活用して事業を開始し、2000年に独立して、2025年に25周年を迎えました。「イントラマート」と総称されるソフトウェア製品の開発・販売・サポートならびに導入支援を事業としております。この「イントラマート」は、システム開発の基盤となる製品で、高い国内シェアを誇るワークフロー機能などで知られており、近年ではDX推進やお客様による内製開発、さらにそれらを担う人材育成支援にも注力しております。

新聞印刷に関する知見はまだ浅いものの、今後は懇話会の皆様との交流を通じて、新聞製作に関する最新技術や業界動向を積極的に学び、弊社の知見と技術を活かした新たな価値創出によって、業界への貢献を目指して活動してまいります。

皆様との協働によって、日本における新聞製作のより良い未来を築く一助となれることを心より願っております。引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

大阪重機株式会社

取締役社長 辻村 達也

この度は、日本新聞製作技術懇話会への入会をご承認いただき誠にありがとうございます。

新入会のことば

入会に際しまして、関係各社の皆様のご配慮を賜りこの場をお借りしてあらためまして心より御礼申し上げます。

弊社は1988年1月1日に創立以来、新聞輪転機及び周辺設備の搬入・設置・輸送・解体・撤去を基軸とした事業を展開しております。

2015年10月に株式会社濱本ジェネラルコーポレーションと経営統合し、多種多様なお客様のニーズにお応えするべく、日々精進しております。

今後とも懇話会の皆様と共に、新聞印刷業界に貢献できるよう安全第一をもっとうとしてまいります。ご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

プロフィール

ITソリューション部部长 大林 智和

この度は、日本新聞製作技術懇話会への入会をご承認いただき、誠にありがとうございます。

弊社は、2002年8月の創立以来、あらゆる業界向けのカatalog・通販市場に対し、各種ソリューションをご提供してまいりました。20年以上大手企業を中心に実績を積み重ねてまいりましたが、その一方で、一部新聞社での導入実績に加え、CTSシステムをご提供しているメーカー配下においてCTSの根幹である組版系・素材系の開発実績にも取り組んでまいりました。

これらの経験を踏まえ、昨今の時代変革に応じて、新聞社向けの新たなソリューションにも一層注力してまいります。

また弊社は、最新テクノロジーの積極的な採用を通じ、「コスト貢献」および「AI技術活用による価値提供」の観点から、業界に新しい価値を創出し、貢献していく所存です。

従来培ってきたノウハウに新しい技術を融合させ、より良いサービス・商品をご提供してまいりますので、皆様のご指導・ご鞭撻を賜りながら、微力ながら業界の発展に寄与していく所存です。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

林 克美副会長が死去



日本新聞製作技術懇話会 (CONPT) の副会長、林克美氏(インテック)が2025年12月17日に死去、62歳だった。一昨年5月のCONPT-TOUR出発直前に体調を崩し入院、仕事に復帰した後も治療が続いていた。葬儀は12月22日に行った。喪主は妻・和枝さん。

<林克美氏 CONPT活動の略歴>

林氏は2008年にCONPT担当者(当時、日本システム技術)となって、当会の活動に参加。CONPT50年の歴史の中で最長クラスの活動歴です。2016年に企画委員長に就任、

CONPTのシンボル事業であるJANPSやCONPT-TOURなどの企画および組織運営の中心的役割を担ってきました。

2021年にCONPTが一般社団法人化すると同時に副会長に就任。コロナ禍でイベント開催が厳しい時期に、「CONPTの存在意義を示そう」と実施したオンライン展示会、続いてJANPSに替わるイベント等々を推進してきました。ご自身の仕事についても、「40年間、業界にないものを考え続けてきた」と常々語っていました。これからも新聞界とCONPTをさらに盛り上げていきたい、との強い思いをお持ちでありました。

CONPTへの永年のご貢献に対する感謝とともに、ご冥福を心からお祈り申し上げます。
(事務局)

CONPTイノベーションフォーラム 6月開催

日本新聞製作技術懇話会は今年6月、新企画「CONPTイノベーションフォーラム」を横浜・ニュースパーク(新聞博物館)で開催します。本フォーラムは、新技術や新たな取り組みを共有することを目的とし、セミナー・講演会・交流を組み合わせたイベントとして企画しています。

<フォーラム予定>

▽1日目 6月11日(木)午後

- ・ニュースパーク見学
- ・基調講演+セミナー (3~4社)
- ・懇親会
- ▽2日目 6月12日(金)午前
- ・基調講演+セミナー (3~4社)



フォーラムの内容は、上流下流にとらわれず新聞社が広く関心を寄せるテーマで構成します。参加募集は3月頃に開始する予定です。
(お問い合わせはCONPT事務局まで)

会員消息

■新入会(会員総数35社)

* (株)NTTデータ イントラマート (1月5日付)
(〒107-0052)

東京都港区赤坂4丁目15-1

赤坂ガーデンシティ

TEL: 03-6822-9250

代表者: 高崎 充弘

(上席執行役員エンタープライズ
ソリューション本部長)

担当者: 田嶋 謙至

(エンタープライズ営業グループ
担当部長)

* 大阪重機(株)(1月5日付)

(〒566-0033)

大阪府摂津市学園町1丁目1-29

TEL: 072-636-1511

FAX: 072-636-1711

代表者・担当者: 辻村 達也(取締役社長)

* (株)プロフィールド(1月5日付)

(〒530-0001)

大阪府大阪市北区梅田3-2-123

イノゲート大阪 15階

TEL: 06-6228-2180

代表者: 植野 博(代表取締役社長)

担当者: 大林 智和

(ITソリューション部部長)

〈4面〉



大谷選手4度目MVP ※ 号外紹介



〈2・3面〉



〈1面〉

岩手日報社の「大谷MVP号外」が事務局に届きました。ご紹介します。

米大リーグ・ドジャースの大谷翔平選手(岩手県奥州市出身、花巻東高)が2025年シーズンのナショナルリーグ最優秀選手(MVP)に選出された記念に、昨年11月14日に配布された号外です。号外は4万5000

部を発行、岩手県の盛岡、花巻、北上、奥州各市と東京都内JR有楽町駅前、JR新橋駅前では即日配布。数量限定で11月15日付朝刊とのセット販売も行われました。

2年ぶりに二刀流復帰を果たした大谷選手のMVPは3年連続4度目。今年も大活躍を願っています。(事務局)

お好み焼き「いろは満月」(大阪南エリア)

今回紹介するのは、大阪府南部にあるお好み焼「いろは満月」です。

私は大阪生まれ大阪育ちの関西人で、“粉もん文化”に馴染んで、半世紀が過ぎました。幼少期から粉もんのおかず(お好み焼や焼きそば等)でご飯を食べることは当たり前で、今では全国チェーン化したT房やF月に通い、地元で親しいご夫婦が行っている店にも長年通っていました。

しかしながら、30歳になったときに生まれた地元から引っ越しをして、これまで食していた“粉もん文化”は「何だったの!」と思わせてくれたことがあったのでこのお店をご紹介します。

それ以降、四半世紀は家に近くにいる時は、他のお好み焼屋や鉄板屋には行かなくなりました。お好み焼きの生地のかんわり感やモダン焼きにて注文をしたときの生地と豚肉の一体感は驚くものでした。

メニューとしては、各種のお好み焼き以

美味あつちこつち



奥が「豚たま」で手前が「豚たまモダン」

バナソニックコネクト 浜川 秀樹

外に各種焼きそば・ねぎ焼・たこめし炒飯・そばめし・鉄板焼き一般を行っています。

数人で訪問したら、複数を注文して、みんなでシェアすることもおすすめです。

とはいえ、お店は大阪南エリアに3店舗(堺、岸和田、泉佐野)しかありません。ですから、訪問の機会は多くないと思いますが、大阪南エリアに来られることがありましたら、是非ともご賞味ください。

わが職場

未来へ向けて、大きな一歩

岩手日報社 総合メディア局システム部長 千葉 幸二

私たちは、入社してからの34年間、盛岡市中心部の内丸にあるこの社屋で過ごしてきました。この内丸という場所は、盛岡の歴史と文化が息づく、私たちにとってとても大切な、特別な場所です。

一歩外に出れば、盛岡城跡公園や市民の信仰を集める桜山神社がすぐ近くにあり、仕事の前に散歩して気分をリフレッシュすることもありました。ただ、先日、お隣の施設でクマが出没したという話もあり、以前のように気軽に散策、とはいかない時もあるのが少し残念でもあります。

この職場の魅力は、何と言っても盛岡のお祭りを肌で感じられることでした。夏の夜には、窓越しに盛岡さんさ踊りの力強い太鼓の音が、秋には盛岡秋まつりのお囃子が聞こえてきて、私たちも「盛岡の会社」なんだと実感していました。

また、徒歩圏内には盛岡三大麺(冷麺、じゃじゃ麺、わんこそば)の名店が軒を連ねており、長年の勤務の中で、ランチなどで大変お世話になりました。

ですが、この内丸の社屋も、あと3年でその役割を終えることになりました。新しい社屋は、盛岡駅の近くに移転する予定です。自宅から近くなり、通勤は格段に便利になりますが、長年この場所で働いてきた者としては、やはり寂しさも感じています。

歴史ある内丸の地、祭りの賑わい、そして三大麺の誘惑から少し遠ざかってしまうのは、やはり名残惜しく、感慨深いものがあります。新社屋への移転は「未来」へ向けた大きな一歩ですが、この内丸での歴史と熱気を忘れずに、新しい職場で情報システムの未来を切り拓いていきたいと考えています。

CONPT 日誌

- 11月5日(水)臨時評議委員会(出席7名)
- 11日(火)広報委員会(出席8名)
- 17日(月)企画委員会(出席3名)
- 19日(水)クラブ委員会(出席7名)
- 27日(木)第34回理事会(出席6名)並びに
11月度評議委員会(出席7名)
- 12月15日(月)第5回年末全体会議(於日本記者クラブ・会見場、来賓3氏、
会員22社33名)。第35回理事会
(9名出席)、懇親会(於日本記者クラブ・大会議室、30名参加)
- 25日(木)仕事納め
- 1月5日(月)仕事初め

◇本誌に連載しました「新聞製作技術の軌跡」全29回を一冊にまとめました。購入方法は、CONPTウェブサイトでご案内しています。
<http://conpt.jp/kisekibook.html>



定価2200円(税込み)

日本新聞製作技術懇話会 会員名簿（35社） 2026年1月現在 （五十音順）

社 名	〒番号	所 在 地
(株)イワタ	101-0032	東京都千代田区岩本町3-2-9
(株)インテック	135-0061	東京都江東区豊洲2-2-1 豊洲ベイサイドクロスタワー
(株)NTTデータ イントラマート	107-0052	東京都港区赤坂4-15-1 赤坂ガーデンシティ
大阪重機(株)	566-0033	大阪府摂津市学園町1-1-29
(株)金陽社	136-0082	東京都江東区新木場1-1-1 王子木材緑化ビル1階
コダック(同)	140-0002	東京都品川区東品川4-10-13 KDX東品川ビル
サカタインクス(株)	112-0004	東京都文京区後楽1-4-25 日教販ビル
(株)システマック	520-2277	滋賀県大津市関津4-772-17
清水製作(株)	108-0023	東京都港区芝浦3-17-10
ストラパック(株)	221-0864	神奈川県横浜市神奈川区菅田町2800
西研グラフィックス(株)	842-0031	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町吉田135
第一工業(株)	335-0002	埼玉県蕨市塚越7-2-8
椿本興業(株)	108-8222	東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル30階
(株)椿本チエイン	108-0075	東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル17階
DICグラフィックス(株)	103-8233	東京都中央区日本橋3-7-20 ディーアイシービル
東京インキ(株)	114-0002	東京都北区王子1-12-4 TIC王子ビル
(株)東京機械製作所	108-8375	東京都港区三田3-11-36 三田日東ダイヤビル6階
東芝デジタルソリューションズ(株)	212-8585	神奈川県川崎市幸区堀川町72-34 ラザーナ川崎東芝ビル5階
東洋インキ(株)	173-0003	東京都板橋区加賀1-22-1
東和電気工業(株)	104-0032	東京都中央区八丁堀1-7-7 長井ビル6階
ニッカ(株)	174-8642	東京都板橋区前野町2-14-2
日本アイ・ビー・エム(株)	103-0015	東京都中央区日本橋箱崎町19-21
日本新聞インキ(株)	210-0858	神奈川県川崎市川崎区大川町13-8
日本通信機(株)	270-1198	千葉県我孫子市日の出1131 NEC我孫子事業場内
日本電気(株)	211-8686	神奈川県川崎市中原区下沼部1753
日本ボールドウィン(株)	336-0034	埼玉県さいたま市南区内谷3-11-26
パナソニックコネクスト(株)	224-8539	神奈川県横浜市都筑区佐江戸町600番地
(株)フジオ産業	115-0043	東京都北区神谷2-6-8
富士通(株)	212-0014	神奈川県川崎市幸区大宮町1-5 Fujitsu Uvance Kawasaki Tower
富士フイルムグラフィックソリューションズ(株)	106-0031	東京都港区西麻布2-26-30 富士フイルム西麻布ビル
富士薬品工業(株)	176-0012	東京都練馬区豊玉北3-14-10
(株)プロフィールド	530-0001	大阪府大阪市北区梅田3-2-123 イノゲート大阪 15階
HOUSEI(株)	162-0821	東京都新宿区津久戸町1-8 神楽坂AKビル
三菱重工機械システム(株)	729-0393	広島県三原市糸崎南1-1-1
明和ゴム工業(株)	146-0092	東京都大田区下丸子2-27-20